

FULL HEIGHT DOOR®

INSET MODE

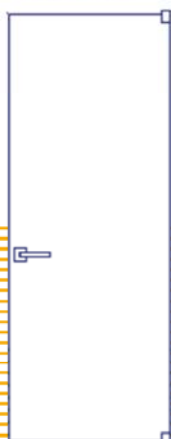
インセット枠

フルハイトドア®

施工手順書

開き戸

開き戸



施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



注意

● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので
扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、
ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは
必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、
洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

□片開き戸

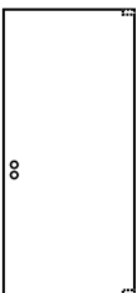
for-インセット枠

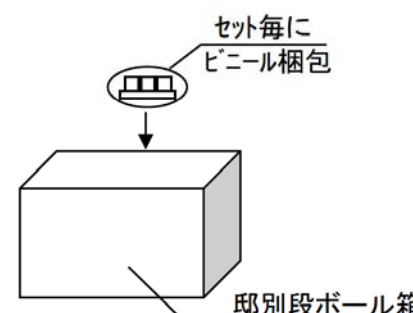
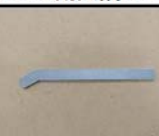
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			同梱品				
部材	数量	備考					
開き戸	1枚	ケース錠取付済み ソフトモーション付の場合のみ ソフトモーション本体取付済み					
							

建具金物箱			同梱品	ハンドルレバー	座	錠カバー	
部材	数量	備考		 1セット	 1セット	 1セット ※錠付の場合のみ	
金物箱	10セットに付1箱			上部ヒンジ	下部ヒンジ	ヒンジカバー	ヒンジ用入隅レンチ
 セット毎に ビニール梱包 邸別段ボール箱				 1セット(ねじ3本)	 1セット(ねじ3本)	 上下1セット	 1ヶ

インセット枠			同梱品	ヒンジ固定ビス	MSビス	コーススレッド	ビスキャップ
部材	数量	備考		 2本	 H24 5本 H27 6本	 H24 5本 H27 6本	 H24 10ヶ H27 12ヶ
縦枠	1本	ラッチ受取付済み		ソフトモーション受座			
縦枠	1本	フルハイトヒンジ受取付済み		 1セット ※ソフトモーション付の場合のみ			
上部見切り材	1本	下がり壁付の場合のみ同梱					
							

☐ 片開き戸

for-インセット枠

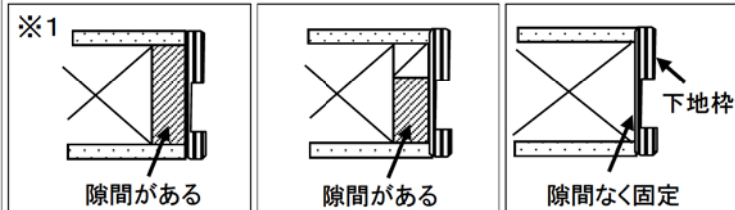
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

下地枠			同 梱 品	施工手順書			
部材	数量	備考					
縦枠下地	2本						
上枠下地	1本	ソフトモーション付及び 下がり壁付の場合のみ同梱					
開口定規	1本						
							

1 施工前の確認事項

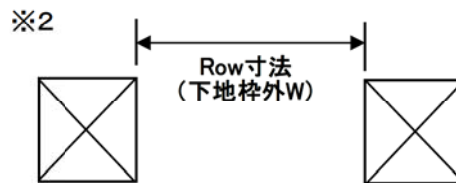
- ① 下地枠を取り付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と、高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をしてください。
（縦枠下地は、床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください）



×

×

○



下地枠外Wの開口枠定規にて開口の確認

注意

- ※1：下地枠は躯体（構造材）と面接合する様に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。
※2：施工前のW寸法確認には、同梱の下地枠外W寸法確認用の開口定規を使用してください。
※開口部（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。

2 縦枠下地の取り付け

- ① 縦枠下地を接着剤・取り付けビス（現場手配品）併用にて躯体に固定します。（下地断面の巾が狭い方が開き側です。壁厚の真ん中に取り付けてください）



下地裏面に接着剤全面塗布

下地表よりビス固定

ビス固定の方法

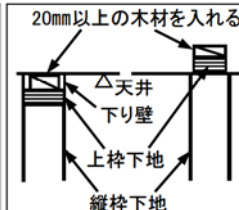
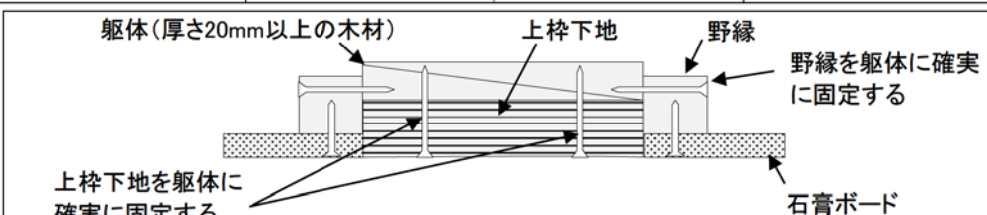
×

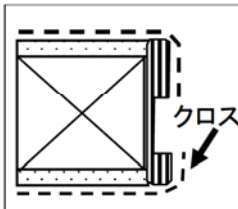
ビス固定の方法

○

注意

- ※下地枠裏面には、必ず接着剤（現場手配品）を全面に塗布してください。（許ビスをお奨めします）
※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス（現場手配品）を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。

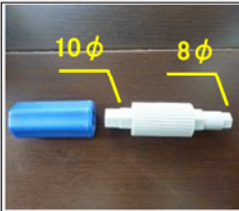
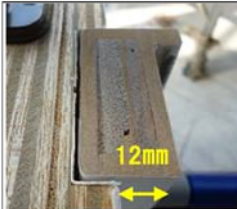
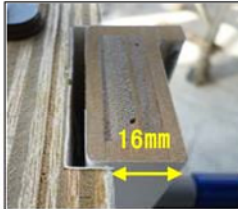
3 上枠下地(下り壁・ソフトモーション付の場合)の取り付け				
①	下り壁・ソフトモーション付の場合、上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。(縦枠勝ちに納まります) その際、上枠下地の裏側には20mm以上の木材を入れてください。			
		下地裏面に接着剤前面塗布	上枠下地の取り付け	上枠下地の裏には20mm以上の木材を入れる
②	上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さを確保してください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。			
		石膏ボードの厚さを確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁に石膏ボードを取付ける		
注意	※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(酢ビ系をお奨めします)			
	※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。			
	※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。			
	※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。			
※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロスの割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。				

4 巾木・クロス施工				
①	巾木を接着剤にて、縦枠下地のシャクリ部分の手前までまわしてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)			
		接着剤全面塗布	巾木の取り付け方	巾木の取り付け方
②	パテ等の下地処理をした後でクロスを貼ってください。 (メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします) その際に、下地のシャクリ部分までクロスを巻き込んでください。			
		メッシュテープ貼り	パテ処理	クロスの貼り方
注意		クロスは、必ず下地処理をした後で貼ってください。		
		その際に、下地のシャクリ部分までクロスを巻き込んでください。		

5 インセット枠の取り付け				
① インセット枠を下地のシャクリ部分にはめ込み、同梱のMSビス又はコーススレッドビスにて枠を固定します。全てのビス固定が終わったら、手動ドライバーで手締めして完全に固定してください。				
	戸先側インセット枠固定 (MSビス)	戸先側インセット枠固定 (MSビス)	吊元側インセット枠固定 (コーススレッドビス)	手動ドライバーで完全に固定
② インセット枠の取付が終わったら、吊元側、または親子戸の親扉側の上部ヒンジ受の2ヶ所のみ、同梱されているヒンジ固定長ビスで固定してください。				
	上部ヒンジ受けの長ビス固定			
注意	※片開きの場合は、戸先側がMSビス、吊元側がコーススレッドビスになります。			
	※インセット枠は正寸カットにて出荷していますので、現場にてカットしないでください。(床仕上面よりの立ち上りとなります) ※吊元側のインセット枠には調整機能はありません。また、同様の枠の裏に付いているパッキン材は外さないでください。			

6 建具金物の取り付け				
① 建具の吊元の上下にヒンジを取り付けます。 金物は別途梱包にあります。				
	上部ヒンジの取り付け	上部ヒンジをビス固定	下部ヒンジの取り付け	下部ヒンジをビス固定
② 座・錠カバー・レバーハンドルを取り付けます。(金物は別途金物箱にあります)				
	座の取り付け前	座の取り付け (レバーハンドルにて穴の位置を確認)	カバーの取り付け	レバーハンドルの取り付け
注意	※ヒンジを取り付ける際、建具に下穴があいていますので、ビスを垂直に上・下を間違わないように取り付けてください。(ストッパーが付いているのが上部)			
	※ビスを取り付ける際、必ず空回りしないように取り付けてください。(空回りすると脱落する恐れがあります) ※レバーハンドルの座を取り付けた後、レバーハンドルを差し込み、穴の位置を確認してからカバーを取り付けてください。			

7 建具の吊り込み							
① 扉を吊り込む前に、上部ヒンジのストッパーを開いておきます。 その後、下部ヒンジ受けの軸に下部ヒンジを差し込みます。	閉じた状態 		開いた状態 				
	上部ストッパーの十字穴に ドライバーを差し込み回転させ開く		下部ヒンジ受けの軸に 下部ヒンジを差し込む		下部ヒンジの吊り込み		
② 扉側の上部ヒンジを軸の後ろ側 から、軸に引っ掛けてくださ い。 最後に、上部ヒンジのストッ パーを閉じてください。	溝部 						
	扉側の上部ヒンジ（溝部）を軸の後ろ側から引っ掛ける		上部ヒンジのストッパーを閉める				
注意	※下部ヒンジを軸に差し込む際、軸に対して建具を極度に傾けるとヒンジ受けの軸が曲がってしまう恐れがあるので注意して下さい。						
	※下部スペーサーは取りはずさないで下さい。 ※扉を吊り込む前に、上部ヒンジのストッパーを必ず開いて下さい。 ※扉を吊り込み後に、扉脱落防止の為必ずストッパーを閉じてください。						

8 MS金物の調整				
① 枠内寸法を確認し、戸先側(親子戸は子扉側)のインセット枠に内蔵してあるMS金物を、8φの六角レンチにてロックを解除します。				
	六角レンチ	ロック解除 (8φ)		
② 調整は10φの六角レンチにて巾方向の調整を行います。(±2.0mm) その際、枠の出荷時の見付寸法はクロス後、14mmの設定になっていますので、12～16mmの範囲で調整を行ってください。(16mm以上飛び出すと嵌合しなくなり、はずれる恐れがあります)調整後は8φ六角レンチにて、必ずロックをしてください。				
	左右の調整 (10φ) (±2mm)	引っ込めた状態 (見付 12mm)	飛び出した状態 (見付 16mm)	ロック (8φ)
注意	※調整は戸先側、または親子戸の子扉側のインセット枠での調整しか行えません。 ※枠出荷時にはロックが掛かっていますので、必ずロックを解除して調整を行ってください。また、解除時に45°以上は回さないでください。 (ロックを解除しないで調整を行うと、MS金物が破損する恐れがあります)			

9-1 金物調整（ヒンジ）

① ヒンジの調整は、建具吊り込み後に扉を閉めたままの状態で行います。 前後及び左右の調整はプラスドライバーを左右に動かして調整を行い、上下は上下調整ねじを回して調整を行ってください。 【調整範囲】 前方向+2.5mm 後方向-1.5mm 左右方向±2.0mm 上下方向±2.5mm	前後の調整(上下部のヒンジ)  前後固定ねじ 後方向 手前方向		左右の調整(上下部のヒンジ)  左右固定ねじ 後方向 手前方向	
	前後固定ねじを1回転緩め、ドライバーを左右に動かして調整し、固定ねじを締め直す		左右固定ねじを1回転緩め、ドライバーを左右に動かして調整し、固定ねじを締め直す	
	 下方向 上方向	 左右固定ねじ 前後固定ねじ	 左右固定ねじ 前後固定ねじ 上下調整ねじ	
	上下の調整(下部ヒンジ) ねじを回して調整	上部ヒンジ：各ねじの名称	下部ヒンジ：各ねじの名称	

注意	※調整の際は、必ず手回しドライバーを使用してください。
	※前後、左右調整時はまず各固定ねじを1回転緩めてください。固定ねじは2回転以上緩めないでください。
	※調整後は、必ず固定ねじを締め直してください。
	※通常の場合、床と建具下端の隙間は1.3mmになる設定です。
	※上下方向の調整は、下部ヒンジのみの調整となります。

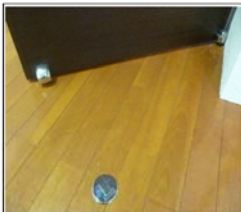
9-2 金物調整（ヒンジ・ラッチ受け）

①	ドライバーが吊元側の壁に当たって調整が出来ない場合は、同梱のヒンジ用入隅レンチを使用し調整を行ってください。	 		
	ドライバー等が壁に当たって調整が出来ない場合は、ヒンジ用入隅レンチを使用して調整			
②	ラッチ受けの調整は、建具の吊り込み後に手動ドライバーにて前後の調整を行ってください。 【調整範囲】 前後方向-0.0mm(手前方向) +8.0mm(後方向)	 		
	ラッチ受けの調整	ラッチ受けの調整		
注意	※ドライバーが吊元側の壁に当たって調整が出来ない場合は、同梱のヒンジ用入隅レンチを使用し調整を行ってください。			

10 ヒンジカバーの取り付け

①	最後に同梱品のヒンジカバーを前方からスライドさせて奥まではめ込んでください。				
		上部ヒンジカバー 取り付け	下部ヒンジカバー 取り付け		
注意	※上部ヒンジのストッパーが閉じている事を確認してください。ストッパーが閉じていないとカバーが奥まで入りません。扉脱落防止の為必ずストッパーを閉じてください。				

11 ビスキャップの取り付け・床付けマグネットストッパーの取り付け(オプション)

①	同梱のビスキャップをインセット枠の穴にはめ込みます。 すべての穴に取り付けてください。 キャップはインセット枠に同梱されています。				
	ビスキャップの取り付け				
②	オプションのマグネットストッパーを取り付ける場合は扉の中央より吊元側には取り付けないようにしてください。吊元側に取り付けると床付けマグネットストッパー、及びヒンジに悪影響を与える恐れがあります。				
	床付けマグネットストッパーの取り付け位置 ○ (扉中央より戸先側)	床付けマグネットストッパーの取り付け位置 × (扉中央より吊元側)			
注意	※オプションの床付けストッパーを取り付ける場合は、扉の中央より内側を避け、戸先側に取り付けて下さい。 内側に取り付けると、床付けストッパー及びヒンジに悪影響を与える恐れがございます。 ※オプションの床付けマグネットストッパーを取り付ける場合は、扉を勢いよく開けないように注意してください。 勢いよく開けると、床付けマグネットストッパー及びヒンジ等の破損の原因となります。				

開き戸用ソフトモーション【オプション】 forインセット枠

forインセット枠
 施工手順書2013/6更新
 改訂2020/6

1 受け金物の取り付け			
① クロス施工後に、上枠下地の金物の加工部分にカッターで切り込みを入れます。			
	上枠下地の取付向きの確認 ※吊元側に金物加工部分が来ます		金物加工部分まで クロスを貼り伸ばす
② ソフトモーション受け座を、加工中央部に取り付けます。			
	ソフトモーション 受け座の取り付け		金物加工部分にカッターで 切り込みを入れる
注意	※クロスは金物加工部分も貼り伸ばしてください。		

2-1 ソフトモーションの調整

① 建具吊り込み後に建具をゆっくりと閉じて、閉じきった後開けると、建具上部の本体引き込みアームが飛び出します。

建具上部の本体引き込みアーム

② **上下調整**
受け金物の受座軸が本体引き込みアームの溝から離れすぎているか、もしくは接触している場合は、受け金物の受座固定ナットをゆるめて受座軸を回しながら上下方向の調整を行い、受座固定ナットで固定してください。

受座軸と引き込みアームのすき間を0.5～1.0mmに調整

	出荷時長さ
スチール枠下り壁	10.0mm
上記以外	16.5mm

受座軸の出荷時の長さ

注意

※調整範囲外で使用すると、ソフトモーション金物が破損する恐れがありますので注意してください。
(調整範囲は、上下方向+0.5mm/-3.5mm)

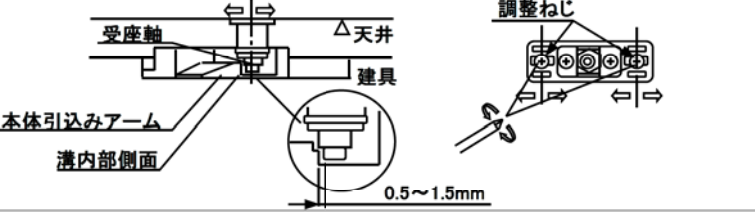
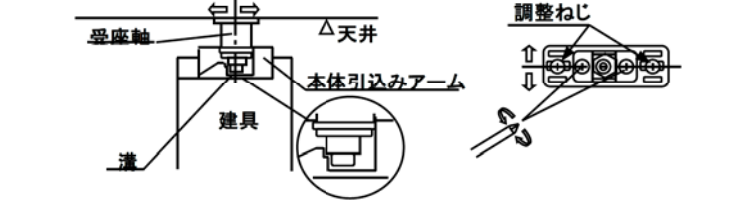
□開き戸用ソフトモーション【オプション】

forインセット枠

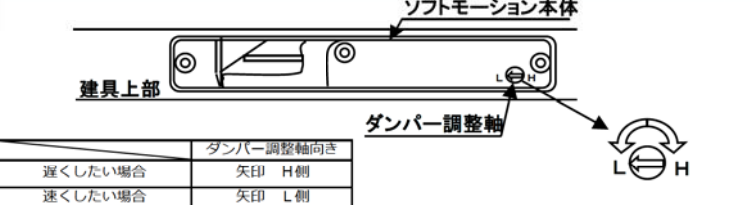
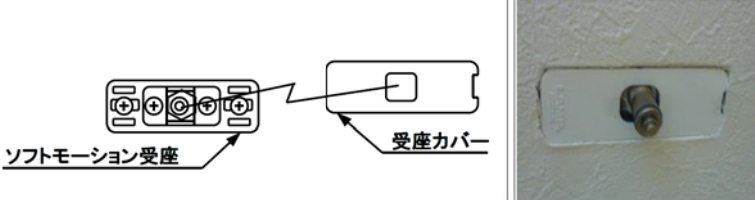
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

2-2 ソフトモーションの調整(インセット枠/ステルス枠共通)

③ 左右調整 受け金物の受座軸が、本体引込みアームの溝内部の側面（段差側）から離れすぎているか、もしくは接触している場合は、受け金物の調整ねじをゆるめて左右方向に調整を行い、再度、調整ねじを固定してください。	 受座軸と引込みアームのすき間を0.5~1.0mmに調整	 左右方向の調整
④ 前後調整 受け金物の受座軸が本体引込みアームの溝に入っていない場合は、受け金物の調整ねじをゆるめて、受座軸が干渉しない位置まで前後方向の調整を行い、再度、調整ねじを固定してください。	 前後方向の調整	 前後方向の調整
注意 ※調整範囲外で使用すると、ソフトモーション金物が破損する恐れがありますので注意してください。 (調整範囲は、左右方向±2.5mm、前後方向±1.5mm)		

3 ソフトモーションの速度調整・受座カバーの取り付け

① 開閉速度が速い場合は、ソフトモーション本体のダンパー調整軸を180°回して調整してください。	 開閉速度の調整	
② 調整が終わったら、ソフトモーション受座に受座カバーを取り付けてください。	 受座カバーの取り付け	
注意 ※ソフトモーション本体の出荷時の速度は、L側（速い）の設定になっています。		